

第2期 鳥取市中心市街地活性化基本計画検討委員会

【第2回 鳥取城跡周辺地域・居住交流検討部会 議事概要】

1. 日 時 平成24年6月7日（木）13：30～14：30
2. 場 所 市役所本庁舎4階第3会議室
3. 出席委員 10名
4. 部会長、副部会長選出
〈部会長〉 鳥取大学地域学部准教授 山下副委員長
〈副部会長〉 （財）鳥取市文化財団理事長 木谷委員
5. 議事録 部会長挨拶
資料に基づき事務局より説明、質疑応答。

＝開会＝

◎ 部会長挨拶

鳥取に来て今年で14年目になるが、この間街づくりについて研究してきた。

人口減少、少子高齢化が進んでいく中で、住みよい街をつくるためには、海外も含めてどういう取り組みが有効かということに関心がある。

研究レベルでは、鳥取の調査を行ってきたが、こういう基本計画を作るということになると、もっと生々しい部分が色々出てくることと思う。今回、皆さんと一緒により良いものにしていきたい。

ただ一方で、時間的な制約もあるので、皆さんの活発なご意見を伺いながら有意義な場にしてきたい。ご協力をよろしくお願いする。

＝報告・協議事項＝

（1）鳥取城跡周辺地域における課題 【資料2】

部会長) では次第の5番目に入る。

報告・協議事項について（1）鳥取城跡周辺地域における課題について事務局より説明をお願いします。

事務局) 皆様にお配りしている資料の中で、資料2-1、2-2、2-3、2-4について。まず2-1、城跡周辺地域における現状を中心市街地全体の現状も踏まえて紹介する。

中心市街地の人口、高齢化率（2ページ）について、市全体約193,000人の人口の中で、中心市街地に存在する町内の人口は、約12,000人。市全体に占める割合はわずか6パーセント程度に落ち込んでいる。

3ページは、今の中心市街地の人口約12,000人の内訳。袋川以南（駅側）の方が約7,000人、そして袋川以北（城跡方面）の方が約5,000人で、袋川以南の方が4割程度多い。4ページに世帯数も挙げている。

5 ページは、歩行者通行量のデータ。中心市街地全体の 29 地点は、平日休日とも全体的に下降気味。一方、袋川以北の 14 地点は、長期的に見ると横ばい傾向。平成 19 年の今の中心市街地活性化基本計画の策定時に、わらべ館、鳥取商工会議所、片原通り（中電ふれあいホール付近）を、調査地点に追加したので、14 地点については、平成 19 年からは 17 地点となっている。

平日については、平成 19 年当時と比べ、平成 23 年の通行量は若干増えている。要因としては、商工会議所が新しくなり、周りに新たにコンビニエンスストアが出来た。さらに言えば、五臓圓ビル再生事業が行われて年間 20,000 人余りの方が昨年度訪れている。それに付随して、新しい店舗が出店してきたことも影響している。7 ページの休日についても、平成 19 年対比だが、若干増加している。

8 ページは事業所数のデータ。平成 21 年のものだが、事業所数は市全体の 3 割程度、そして従業員数はこれも市全体の 3 割程度。

9 ページは、小売業の推移について。郊外型の店舗が増加により、平成 9 年頃から中心市街地の割合がかなり落ちている。

1 1 ページは、空き店舗数の推移と商店街毎の空き店舗率を出している。全体の店舗数としては市全体で 580 店舗あり、その内 9 商店街の空き店舗率が 11.4%。

1 2 ページは、観光分野として主な文化交流施設の入込客数を挙げている。特にこの城跡周辺エリアには県立博物館、仁風閣、わらべ館、やまびこ館、高砂屋といったような施設が点在しており、5 館合計は約 300,000 人。年間約 300,000 人の方々がこの地域に訪れられている実感は皆さんにはないのではないかと思っている。

1 3 ページは、低未利用地。中心市街地において空き家、空き地が増え、それが月極駐車場等に移行する傾向が続いており、平成 23 年は 24.43ha の低未利用地がある。月極駐車場の割合が多い。

1 4 ページは地価の推移。土地の値段がどんどん下がっている。

1 5 ページは、自動車保有台数。鳥取市全体では平成 19 年以降は、ほぼ自動車の保有台数は横ばい状態となっている。

1 6 ページは公共交通利用。JR 鳥取駅、鳥大前駅の乗客数。鳥大前駅は若干伸びているところもあるが、JR 鳥取駅については右肩下がりの状況が続いている。そして、乗り合いバスも年々減少している。

その一方で、1 1 ページの 100 円バス、一番右を見ていただくと 300,000 人を超えている。昨年度、初めて 300,000 人の大台に乗り、着実にくる梨の利用者数が増えている。

続いて、資料 2-2 の①。これは城跡周辺エリア、袋川以北に絞ってご紹介する。

この資料は昨年、現本庁舎周辺地域活性化検討委員会において地域の現

状・課題を探る中での資料。この中で周辺地域で予想される事象として、居住人口の減少・高齢化、あるいは小学校児童の減少、商店の減少、空き地・空き家等の増加があり、それらについて議論した。

2ページの、『居住人口の減少・高齢化①』は、平成20年、21年、22年の3年間の推移。やはり年々減少している。

4ページの『居住人口の減少・高齢化③』は、今後の人口推計。袋川以北についても減少していくという予測。さらに5ページの高齢化率については今後も30%台の高さで推移するという予測がでている。

6ページは、『小学校の中心市街地の児童数の減少①』として、久松、醇風、遷喬3校の平成3年からのデータを挙げている。過去20年で4割程度減少しており、1年生は5割程度減少している。

8, 9ページは『商店の減少①, ②』で、平成19年の商業統計からの数字。いずれも事業所数、従業員数、年間商品販売額とも減少している。大きな課題として、若桜街道沿いに鳥取大火後に建てられた店舗兼住宅が並んでいるが、50年余りを経過して非常に老朽化が進んでいる。いずれも店舗兼住宅という構造上の問題もあり、商売を辞めても上に住んでおられる為に第三者に貸すということは難しいという実態がある。

10ページは、空家・空地等の増加について。全体と袋川以北について月極駐車場、空地、空家、時間貸駐車場のそれぞれの件数・面積を示している。

土地の価格は、10年前の約45%まで下落している。一方で土地代や家賃等が下がっても買い手や借り手が見つからない。中心市街地特有であるが、間口が狭くて奥行きが非常に長く、土地の形状が少し悪い。そして近所に同世代がいない。あるいは、スーパーマーケット等そういった日常生活関連のお店が少ないので買い物に困るといった要素がある。

この続きとして資料2-2②の1ページに、『人口動態』の部分を少し掘り下げた資料をつけている。袋川以北については自然減、社会減についてどちらの要因でも減少傾向である。また転入、転出の多くはマンションやアパートの関連が多い。

2ページは、平成20年から平成22年度における転入、転出の総合計。マンション、アパートそういった受け皿になるような部分がある所は転入、転出が多いという傾向。

資料2-3は、今申したような現状等を踏まえて、昨年、現本庁舎周辺地域検討委員会で、仮に市役所庁舎がここから移転した場合を想定しての議論をしてまとめた報告書である。

ご存知のように、先般の住民投票の結果を受け市民の皆さんの意向ということで基本的には現地での改修等となり、基本的には前提条件が崩れたが、先程ご紹介したような現状等を踏まえてこの地域にどういった施策が必要なのかについて議論した資料ということで今日ご紹介した。

2 ページでは、中心市街地には多くの方々が来ておられるが、その方々は地域を回遊されていない。そのため、多くの方が来ておられるという実感が、地域の方々には無い。『来街者の回遊性の低さ』がある。

3 ページにこの地域が今後目指していく方向性として、居住推進による、幅広い世代が住む生活の舞台。もう一つは、多様な歴史、文化、景観等の資源を有する、交流の舞台。この二本柱で街づくりを進めることを、この委員会で方向性として提案した。

そして今の方向性に沿った形で、どのような施策が考えられるかということで、3 ページの5 番のところに(1)～(6)と。住環境の拡充、安全・安心な歩行環境の拡充、良好な景観の形成、安全・安心な街づくりの拡充、公共交通の拡充、交流機能の拡充。こういったことを提案いただいた。

それ以降、仮にこの地域の中でまとまった大きな土地が空いた場合にそこにどのような機能を導入したら、この地域の街づくりに有益かということで議論した結果が、その見開き7 ページにつけているイメージ。これは跡地としているが、今は既に跡地という前提ではない。ただ、先程言ったように仮にこの城跡、袋川以北の中で大きな土地、活用出来る土地があるとすればどういった活用の形が一番いいかという一つの提案。

最後に、『城跡観光推進計画の(案)』を2-4につけている。

居住と交流という二本柱の方向性が考えられる中で、交流として今ある資源を活用する観点からも、鳥取城跡の活用について市役所の関係各課が集まって作成したたたき台であり、今後、市民の皆さんや民間の方々の意見を入れながら、正式な計画にしていきたい。

3 ページに、今の城跡周辺の観光を進めるうえでの課題を挙げており、歴史・文化と自然が調和した景観づくりの必要性や、資源の保存・維持・活用、観光地としての魅力向上、受け入れ体制の整備、情報の発信、そして住民の皆さんや関係機関との連携。住民の暮らしも無視出来ない問題。

このような課題を踏まえ、5 ページ以降に具体的な施策が挙がっている。

西高の入り口の、大手筋の復元は、保全・整備計画の事業が進んでいる。その他、例えばお堀端の道路の再整備や、城跡周辺に休憩・物産販売といった拠点施設等が必要ではないか。

また、観光客を意識した移動手段も新たに加えたり、案内板、解説板の計画的に整備する必要があるのではないか。

さらに、ソフト事業として、具体的に事業概要の紹介が(案)の段階なので、皆さんのアイデア等をいただきながら、肉付けが出来ればと考えている。以上、一通り城跡周辺地域の現状を紹介した。

部会長)
事務局)

アンケートについては？

参考資料として、『アンケートの結果』をつけている。先般、今回の基本計画検討委員会の委員の皆さまに中心市街地活性化についてアンケートを

お願いし、その回答をカテゴリーに分けてご紹介している。

部会長)

今の説明に対してご質問とかご意見がありましたらお願いしたい。

データを使った現状の説明が中心だったので、中々今の実態についてイメージしにくいとは思いますが。

事務局)

ご指名していただいてもいいと思う。

部会長)

では、副部会長お願いしたい。

副部会長)

資料の2-1、3ページの中心市街地の人口推移で、袋川以北は平成19年3月が5,402人だったのが、24年4月は5,092人と5年間くらいで減っている。袋川以南は、平成19年3月は6,866人だったのが平成24年4月には7,320人に増えている。これが、色んなところに反映されてくるし、これを見ながらものを考えていくかと思った。

部会長)

順番に発言をお願いしたい。

委員)

鳥取市の場合、特に就業上の問題と関わっている気がする。働く場がないのが人口に反映している。今ある資源をどう有効に活かしながら豊かな生活が出来るのかと考えると難しい。

ただ、私は非常に落ち着いた静かな街で、歴史や文化が非常に多い街だと思っている。地域に人が戻ってくるような施策を考えるのか、あるいは外から人が来て交流するような施策にするのか。

委員)

特に児童数の減少について、小学校1年生の数をみて、遷喬の21人という数を見ると、学校として成り立っていくのもままならない。学校に見合うだけの子どもを呼び込もうとするのであれば、市営住宅なりの誘致というか住環境を整えて若い世代を呼び込まなければならないし、もしくは学校が本当に3つ必要なのかどうか、それよりも学校ではない他の施設への移行も考えていかないといけない。

委員)

地域の歴史の推移がある。昔は鹿野街道が非常に賑わい、次に智頭街道になり、それから若桜街道が繁栄し、それから駅周辺が繁栄し、それで鉄道高架になったら駅南が栄えた。袋川以北の人口減少は、歴史の推移であり、何をしても歯止めがきかない。若い人が結婚しないし、子どもを産まない。これでは人口が絶対に増えず、減るばかり。

大丸のところに、屋根を造るのに6億円。6億円も使うのなら、他の何かに使えないかと思った。屋根を造っても、そこに人が集まる感じはしない。

委員)

高齢化率を考えると本当にぞっとする。

ここを住みやすい地域にするために、この部会等を含めて検討する材料はたくさんある。

高齢化が厳しくなるということは、移動手段の確保の面では、今後ますます100円循環バスのくる梨、緑コースも出来るということもあり、移動手段の確保の仕方によって人の動きも変わってくると感じた。

委員)

昭和40年代はビル建設等も盛んで、公共的にも活発な状況だったが、昭

和 50 年代から景気の低迷など様々なことがあり人口が減り、産業が低迷していった。併せて郊外に商業都市が集中され、結果的に中心市街地の若桜街道等で人の動きがなくなってきている。

また、地域性が欠けている、若者の意見が反映されない等の問題がある。

いずれにしても、コンパクトシティで、医療・福祉機関がある都市に人口を集中させる。そこからシャトルバスで田舎の田畑に行く。もっとコンパクトに皆が集まるような生活空間を充実させたらどうかという思いがある。

委員)

一番の課題は、データからも分かるように街なか居住ではないか。

今の基本計画は 2 核 2 軸を推進しているが、その一つの核の川内エリア全体に、街なか居住が課題として結びつくかという、そうではないと思う。

その大きい核の中でも、若桜街道周辺は街なか居住や商業が課題になると思うが、城跡周辺は観光のイメージが強いので、それぞれ分けて課題を考え、次の計画に結びつけるべき。

資料 2 - 2 ②だが、人口動態の自然・社会要因の部分で、転居転出、転出、死亡とあるが、転居転出と転出との違いは？あと、わらべ館の入館者数が平成 23 年度でかなり落ち込んでいるが、どのような要因からか？

事務局)

転居転出は市内の中での異動であり、中心市街地から郊外に出られたということ。同じように転居転入というの、郊外から中心市街地区域に引っ越したということ。転出は市内から市街への異動。

わらべ館の入館者数は、年度ではなく年の括りとなる。

委員)

わらべ館は平成 23 年に一部展示リニューアルの為に、2 月・3 月を休館した。そのため、24 年度より減っている。

部会長)

今後数十年間、国全体としては人口が増えるというのはまずないというのは動かしようのない事実。中心市街地を含め市全体としてもそういう傾向がみられるが、知恵を出して工夫をすることで和らげたり、少しは改善出来る部分もあるのではということで、皆さんにお知恵をお借りしながら、またご意見を伺いながら進めていきたい。

今日は、皆さんの疑問点を伺いながら、現状を数値で確認した。

＝報告・協議事項＝

(2) 現地調査の概要 【資料 3】

事務局)

資料 3 ということで、この地域内の主なところと一緒に歩いていただいて、現状がどうなっているのか、皆さんと一緒に確認していきたい。行程としてはこれから 1 時間半程度を予定している。

市役所を出発し『こむ・わかさ』、これは今回若桜街道商店街の事業であり、旧山陰合銀の若桜支店を改装して、コミュニティカフェをつくられた。1 日 600 人くらいの方が訪れており、大変賑わっている。特に大きいのは、

これまで休日になるとほとんど通行量がなかったが、休日でも賑わうようになった。これは生活関連の商業の一つの事例としてご紹介していきたい。

次は、コミュニティ食堂『ビーンズ』。土地の形状が非常に細長い家屋を改修した新たなコミュニティ食堂。地域の皆さんがここに集まって話しをしていただく場所を提供したいという方がつくられた。

その後、西町コーポラティブハウスモデル事業用地。たくさんある駐車場を住宅地に転換していく為の事業。モデルとして市が現在進めている事業である。これは既に住宅を着工している。

その後、わらべ館、わらべ夢ひろばを経由し、岸根邸。皆さんあまり聞きなれない場所だと思うが、市内に現存する数少ない武家屋敷。

その後、旧金田市長邸。築 50 年以上が経過した木造建築。副部長さんが詳しいとお聞きしているので、現地でお話いただきたい。

先程ご紹介した、山の手のお堀端道路の再整備の構想。あるいは城跡の保存・整備。

更には、仁風閣。既に年間 35,000 人程度の人が入っているが、庭園等をもっと活用して更に人を呼び込めないかというようなこと。

その後今、県民文化会館と図書館の所にある箕浦家武家門。かつては城跡の方にあったものであり、城跡観光を進める中で、お堀端の元にあったところに戻して集積を図ることも考えられないか。

日赤が建て替えの計画を進められているので、可能であれば原委員にお話いただきたい。

また、今日現地を見られた後に、簡単なアンケートをお願いしたい。

部会長)

今の説明の 2 枚目のところにルート図があるが、限られた時間の中で全てを見ることが出来ないし、転々と点在しているところの間に行くので、その間の部分をどうするのかも非常に大きな課題なので、その辺りに思いをめぐらせながら歩いていただきたい。

では、次回の日程について。

=その他=

● 第 3 回部会について

7 月 2 日 (月) ~ 6 日 (金) の間で調整

事務局)

第 3 回部会について、7 月 2 日から 7 月 6 日の週で開催させていただきたい。日程を調整させていただくので、よろしくをお願いしたい。

部会長)

次回はこういった内容か？

事務局)

部会長さん、副部長さんにご相談させていただけたらと思うが、今日の課題なり現地を見ていただく中で、気付かれた点等をお寄せいただき、事務局としてたたき台をお示しした方が、皆さんにも色々ご意見を出していただ

けるのではないか。

材料なしでは中々話もしづらいと思うので、事務局の方から材料を提供させていただき、それを踏まえ皆さんに色々意見を出していただけたらと思う。

副部会長)

事務局から材料を提供すると言われたが、当日にいただいても、飲み込む暇もないので、何日か前に各委員さんに郵送なりでお願いして、整理する時間があつた方がいいか。

事務局)

事前に事務局の方で各委員さんにお届けする。

部会長)

この後の街歩きで出てきた疑問点等について、次の部会までに資料を探したり、作って欲しい、というリクエストも積極的にお願いしたい。

次回、より良い議論する為の材料を、私達からもリクエストして遠慮なく言っていただきたい。

事務局)

今日はどちらかというと一方的な説明になったが、出来るだけ早めに皆さんに資料をお届けするので、よろしくお願いしたい。

=閉会=